

理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

平成九年度

理科作品口頭展
報出人口特集

九月二十五日から二十六日まで成田市立成田小学校を会場に印旛郡市理科作品展が開催されました。どの作品も力作ぞろい作品総数は三百一十一点でした。ご協力ありがとうございました。

本号では、審査にあられた先生方からいただきました講評を掲載いたしました。次年度の参考にさせていただけたらと思います。

科学工夫作品の部
山王小 深山 民夫先生

理科作品展の科学工夫作品の部には小学校、中学校合わせて百五十二点集まりました。いずれも部会の審査を経て出品された優秀な作品ばかりでした。

小学校低学年の作品は、ゴム等の弾性を利用した作品、磁石を使

った作品が多く、中学年は、これに加えてモーターを使った作品が多かった。高学年では、電氣を利用したより複雑なものの作品が集まった。中学校の作品は、「日常生活を便利にするために」ということを意識した作品が多くあり、いずれも実用的である。

以下に、印象に残った作品から二点紹介し、講評をとじたい。

四和小学五年小林さんの「パラパラ天気図」は、衛星からの雲画像をアニメの原理で、モーターを利用し連続的に表示していくものである。天気の変り方方の学習の際「連続的に表示できた」という必要感が生じたものと推測される。連続表示がスムーズで作品としての完成度が高い。

遠山中学二年松本さん、中村さんの「卓球ボール取り」は、ピンポン玉の直径よりやや短い長さの格子状に、ゴム紐をはった吸い取り口からピンポン玉を吸い取るというものである。床に落ちてくる玉を、その上からゴムの格子で押さえつけると、ゴムが伸びて吸い取り口から出る。一度入ったらゴムが縮み、玉はもどらない。必要感から生まれたアイデア作品である。

科学論文の部
栗山小 森 成雄先生

今年度の論文の傾向を振り返ってみると、小学校低学年では生物分野の観察記録が中心であった。特にアサガオやダンゴムシの観察が多く、成長の変化を細かく順を追ってまとめられていた。全般的に観察記録だけのものが多かった中で、自分で考えた実験や疑問に思ったことを調べている作品が選ばれた。

中学年になると観察記録だけの物はなく、テーマを決め、それにそって幾つかの実験方法や観察を行うようになっていた。ただ、その取り組みは漠然とした思いつきで行っているものが多く、途中で目的を見失って結果があいまい

いになっている。選ばれた作品ははっきりとした目的を持って最後まで追求している点が多かった。高学年になると、分野も多方面に渡り、取り組みも目的を持って専門的に追求している物が多い。選ばれた作品は、その中でも追求の過程がしっかりして結果がはっきりと出ており、考察が論理的に導かれていた。

中学校では、テーマやデータを見本から取ったと思われる作品が見られた。また、自分でデータを出しても、結果までしか出さず、きちんと考察している作品は少なかつた。選ばれた作品は、考察まで言及しているものであった。小中学校を通して、全般的にもう一度論文の書き方のきちんとした指導を行う必要があると思う。

いになっている。選ばれた作品ははっきりとした目的を持って最後まで追求している点が多かった。高学年になると、分野も多方面に渡り、取り組みも目的を持って専門的に追求している物が多い。選ばれた作品は、その中でも追求の過程がしっかりして結果がはっきりと出ており、考察が論理的に導かれていた。

中学校では、テーマやデータを見本から取ったと思われる作品が見られた。また、自分でデータを出しても、結果までしか出さず、きちんと考察している作品は少なかつた。選ばれた作品は、考察まで言及しているものであった。小中学校を通して、全般的にもう一度論文の書き方のきちんとした指導を行う必要があると思う。

小学校の作品の中に、立派な昆虫標本がありました。カブトムシやセミはもちろん二、三ミリメートルほどのコガネムシのなかまなどが丁寧に台紙に固定され、採集場所や名前も記録されていました。

作品全体から、昆虫や生物への興味の高まりを感じました。もしかしらこの作品の作者は、今はあまり見られなくなった「ちびっ子昆虫博士」なのかもしれません。植物標本は、身の回りから旅行先、帰省先のものなど、植物の種類や標本の数において力作が集まりました。採集地、分類、和名、学名なども熱心に調べられています。欲を言えば、細かい部分を丁寧に広げ、葉の緑や花の色がきれいに写っている作品が望まれます。

貝化石標本も毎年出展され、採集地も広がっています。夏休み中に教室を離れ、自然の中に遊び、生物の生命に直接ふれ教科書にはない様々なことを学習し、その証拠の品々が来年も多く集まることを期待しています。

標本の部
印西中 松田 治久先生

数年前までは、「昆虫採集セット」という商品が文具店や玩具店によく見られましたが、今年の夏はあまり見かけませんでした。昆虫といえども、生き物の命を奪うことに対して慎重にならざるを得ない事件があったり、子どもの生活環境が昆虫から離れてしまったことが、麦わら帽子に捕虫網を持った子どもたちを少なくした原因なのではないか。

小学校の作品の中に、立派な昆虫標本がありました。カブトムシやセミはもちろん二、三ミリメートルほどのコガネムシのなかまなどが丁寧に台紙に固定され、採集場所や名前も記録されていました。

作品全体から、昆虫や生物への興味の高まりを感じました。もしかしらこの作品の作者は、今はあまり見られなくなった「ちびっ子昆虫博士」なのかもしれません。植物標本は、身の回りから旅行先、帰省先のものなど、植物の種類や標本の数において力作が集まりました。採集地、分類、和名、学名なども熱心に調べられています。欲を言えば、細かい部分を丁寧に広げ、葉の緑や花の色がきれいに写っている作品が望まれます。

貝化石標本も毎年出展され、採集地も広がっています。夏休み中に教室を離れ、自然の中に遊び、生物の生命に直接ふれ教科書にはない様々なことを学習し、その証拠の品々が来年も多く集まることを期待しています。

理科作品展審査結果

学年	氏名	作品名	学校名	備考
小1	原 京平	にゅうくぐいでとぶロケット	西志津小	
2	林 誠司	大砲	豊引小	
2	宮原 拓郎	さるも木からおちる	佐倉小	
2	伊藤 海平	光って流れる水風船	小林小	
2	森田 真	ゴミ食いセンサー	内野小	
3	森原 達也	じしゃくを使ったはかり	平成小	
3	福原 淑子	絵が上手に描ける機械	大森小	部
4	川藤 陽介	新聞回収おじさん	内野小	
4	小倉 宏之	膝のまなぶくん	豊引小	
4	宮坂 龍介	電球花	栗山小	
4	角田 陽介	森のめぐみ	大日小	
5	白井 順平	しゃべってミラー	佐倉小	
5	斎藤 洋信	道路工事	朝陽小	
5	小林 素子	パラパラ天気図	四和小	
5	佐久間敏樹	かさ立て	龍角寺小	部
6	白井絵梨花	空き缶楽器	佐倉小	
6	相澤 剛史	ミニ四駆ゴマ	山王小	
6	黒川誠太郎	あばれる磁石	川上小	
6	小川 竜司	バスがつれた！つれた！	中郷小	部
中1	宇佐美 健	お自動さん（水位調節器）	玉造中	
1	池内 弘樹	計量キャップ	印西中	部
2	松本 真弓	大砲かり 砲撃プロ！卓球ボール取り	遠山中	
2	中村 千幸	ハイテクしおり	本羽中	
2	浅木 真志	アルミ缶スチール部別装置	西の原中	
2	伊藤 好洋	はかりにはかり	本雙中	部

＜論文の部＞

小1	小平 典子	かたつむりのけんきゅう	八街東小	
1	橋本由里奈	あさがおのかんさつ	高花小	部
2	古川 舞	ダンゴムシのかんさつ	八本原小	
3	小坂 篤志	だんご虫の研究2	四和小	
3	山田亜希子	オシロイバナの研究	白井第三小	部
4	牧野 哲久	ザリガニの実験観察	永池小	
4	片山 恭彦	お自動さん（水位調節器）	佐倉小	
5	小川夏代子	成田市近辺に住む野鳥たち 1989年版	平成小	
5	池畑 美穂	保護の研究 布団編	公津小	部
6	松山 都	とうふが煮えるとなぜ厚くの？	本雙第二小	
6	松田 聡美	ハゲイトウや赤じその葉の観察調べ	草津小	
中1	大迫 哲也	ペットボトルロケットの研究	佐倉中	
2	佐藤明日美	サツマイモの研究	井野中	
2	藤田 敬大	八街の赤い風のひみつ	八街北中	
2	清田 純輝	炭酸飲料によるカルシウムの減少の研究	栄中	部
2	沼野 裕美	酢の殺菌作用の研究	本羽中	部
3	大角 瑠	タンポポの根の再生	井野中	

＜標本の部＞

小1	土屋あかり	たねあつまれ	根本小	
2	島村 卓南	かいそうおしげな	交通小	
2	遠藤 恵利	おし花	みそら小	
3	大野 明香	貝の標本	弥富小	
3	能見 敦子	海草の標本	板橋小	
4	新島あす香	外国から来た草々「帰化植物」	三里塚小	
5	大野 雅史	化石の標本	弥富小	
5	中村 洋一	木下貝類の化石	永池小	
5	神田 智子	藻草標本	船橋小	
6	中村 幸祐	昆虫標本	王子台小	
中2	永井 伸祐	コケの標本	船橋中	
2	土屋 真希	散歩道の植物	八街中央中	
3	安川 真里	庭や空き地の雑草	井野中	

標本、及び備考欄に「部」とある作品につきましては県展に出品いたしませんでした。